

# 水子供養について

この世に生を受けながら、光を見ることなく亡くなった子供のことを水子といいますが。生まれた赤子が母の愛情を一心に求めるのと同じく、水子も親の愛情を一心に求めています。早く忘れたい事実なのかもしれませんが。しかし忘れてほしくはないと思う相手が、そこにいます。

水子にしてあげられること

- 一、水子の存在を覚えておいてあげること
- 一、今日には、手を合わせ慈しみの気持ちで差し向けること
- 一、水子の霊が神仏に導かれるよう、先祖供養と同じように水子供養を行うこと



当山の水子供養は

水子の霊になにも施されていない場合には、まず、葬儀と同じように仏様との御縁を繫ぎます。そして、お地藏様を中心とした水子の霊を導く仏様を供養し、霊を成仏へと導きます。

これらの法要は、この世を生きた人が亡くなった場合の通常の葬儀や法事と同様に丁寧に行われます。

正式な供養をきちんと行いますので、水子の霊も親御さんのお心も安心を得て幸せに向かいます。



1. 水子供養の必要があるとお気づきになった方。  
↓
2. 水子の命日などが分かる場合にはご確認ください。  
↓
3. 神崎寺に水子供養の予約をしてください。  
(電話 0478-72-3999)  
↓
4. 神崎寺にご来山ください。(お供え物のお菓子などと供養の御布施をのし袋に用意します。)  
↓
5. ご来山のうえ法要を行います。  
(来山できない場合は、責任もって法要を執行します。)  
↓
6. 継続的に供養される方は毎月の供養日にお申し込みいただくか、永代供養をお申し込みください。

## 宗教・宗派・宗旨など一切不問

宗教、宗派や宗旨にこだわる必要はありません。仏教の教えは広大無辺であり、宗派・宗旨によって縛られるものではありません。

時間が過ぎてからの供養もできます。過去の水子の存在が気にかかっている方は勇気をだしてご連絡ください。

親御さんが水子に目をくれないようである場合、近くにいて慈悲の心を水子供養の形にしてください。

水子を持たれた女性のお心が苦しんでいる場合には、当山でお話をして、お心を軽くしてください。

物事がうまくいかない、体の調子がすぐれない、不幸が重なるなどに水子供養が思い当たるかたは、ぜひ、御相談ください。

